※令和４年度以降入学生用

学校番号	1010

令和８年度　芸術科［美術］

教科	芸術	科目	美術Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	美術１(光村出版)						
副教材等							

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・「絵画・彫刻」「デザイン」「映像メディア表現」「鑑賞」の分野から、幅広くテーマを取り上げ、できる限り多種多様な課題に取り組みます。
・与えられたテーマについて、様々な見方や感じ方で対象を捉え、一人ひとり違った表現の作品につなげて行きます。答えは一つではありません。個性豊かな表現と、それらをお互いに尊重し合える感性を磨いていきます。

２　学習の到達目標

・美術の幅広いジャンルの作品に触れ、またそれらを生かした創造活動を通して、美術表現の多様さを知り、技能、知識を学ぶ。
・造形的な見方・考え方を働かせて制作テーマを生成するとともに、学んだ表現方法や知識を生かして美しい表現につなげる。
・魅力ある表現となるよう、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わり、粘り強く制作する態度を身につける。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	様々な表現技法や美術文化に関心を持ち、画材や道具の使い方について実際の制作から学び、テーマの意図や自身の目的に応じた表現が自由に行えるよう努力している。	身に付けた技能や知識を生かし、テーマや感じ取ったこと、考えたことなどから主題を生成し、目的に沿った表現を行うため、創意工夫し、積極的に取り組もうとしている。	学んだ技術や技法を生かして、より良い作品につなげるため工夫を凝らし、向上心を持ってより魅力ある作品に仕上げようと試みている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	人物クロッキー	【絵画】 生徒同士でモデルを務め、1 枚6分程度でスケッチする。 毎時間1枚仕上げる。	a:観察した対象を様々な画材を用いて紙に写し取るという訓練を通して、観察力や描写力を磨き表現している。 c:毎回の完成作品から課題を見出し、次の作品を制作する際の反省材料として活用している。	作品		作品
	ステンドグラス風絵画	【絵画】 ステンドグラス風の絵画を、特殊なインク(ステンドカラー)を用いて描く。 インクは三原色のみを使用し、色の混色について体験を通して学ぶ。 自然をテーマに写真等の資料を用いることで、写実的な表現について学ぶ。	a:写真等の資料を活用し、観察によって得られる美しさや面白さを生かして画面を構成している。 b:三原色のインクの混色から、色について体験を通じて学び、色の塗り方を工夫することで色鮮やかな作品につなげている。 c:毎回の制作の際、活動計画とその進捗状況を記録することで、目的を持って計画的に制作を進めている。	下絵	作品	制作活動の記録
	模様がつながるゴムはんこ	【彫刻・工芸】 3㎝角の消しゴムを用いてゴムハンコを作る。 ハンコのデザインは押印した際、模様が上下左右につながるように考える。 出来上がったハンコを無地の布に押して手ぬぐいに仕上げる。	a:模様がつながる仕組みを理解し、その限られた条件の中で、美しいデザインを積極的に検討し、かつ、丁寧に彫り出すことで模様が美しくつながるように仕上げている。 b:ハンコを押す際、インクの配色や混色、押し方などに工夫し、美しい模様を施した手ぬぐいに仕上げている。 c: 毎回の制作の際、活動計画とその進捗状況を記録することで、目的を持って計画的に制作を進めている。	ワークシート 作品1	作品2	制作活動の記録

※令和４年度以降入学生用

２学期	丸で作るキャラクター	【デザイン】【鑑賞】 コンパスで描いた様々な大きさの丸を構成し、それに肉付けするなどしてオリジナルのキャラクターを作る。 身の回りにあるキャラクターも、丸で構成されているものがたくさんあることを知る。 相互鑑賞	b: 発想力・構想力を生かして丸みを組み合わせ、愛されるキャラクターのデザインを生み出している。 C:出来上がったキャラクターに、名前を付けたりコンセプトや性格などを考えるなど、より魅力あるキャラクター作りをしている。		作品	振り返りシート
	抽象表現に挑戦する	【絵画・彫刻】【鑑賞】 教科書に掲載されている作品の中から線や形を選び取り、それらを構成して抽象的に平面構成する。 その平面構成の中から気に入った部分をトリミングし、シルクスクリーンの版を作る。 印刷用紙に色を塗る。混色や配色、塗り方を工夫し、抽象的で美しい画面を作る。 出来上がった版と印刷用紙を用いて配色も考えながら重ね刷りし、美しい抽象的な画面を構成する。 画面から受けるイメージを大切にして作品にタイトルをつける。	a:具体的な形は利用せず、曲線や直線を組み合わせながら美しい形や面白い画面を構成している。 b:出来上がった版を用いて、色や印刷方法に工夫しながら、表現豊かに重ね刷りを施し、積極的に画面作りを行っている。 c: 毎回の制作の際、活動計画とその進捗状況を記録することで、目的を持って計画的に制作を進めている。	下絵	作品	制作活動の記録

※令和４年度以降入学生用

３学期	木のカトラリーを作る	【デザイン・工芸】【鑑賞】 スプーン、バターナイフ、フォークの中から一つを選び、木を削って実際に使うことを想定したカトラリーを作る。	a:刃物の安全な使い方や保管方法などを、実際の制作を通して学んでいる。 b: 誰が、何を食べる時に使うか、使いやすい形とはどんなものかなど、目的や機能に配慮したデザインを考えている。 c: 毎回の制作の際、活動計画とその進捗状況を記録することで、目的を持って計画的に制作を進めている。	作品	アイデア用紙	制作活動の記録

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度